

私たちの活動や意見を  
仲間で共有します  
会費は県と日本平和委  
員会の活動も支えます

# 土浦平和の会ニュース

発行：土浦平和の会  
事務局：土浦市神立町2664  
ホームページ：[//heiwatutiura.web.fc2.com/](http://heiwatutiura.web.fc2.com/)



## 満蒙開拓の歴史を学ぶ

### 土浦平和の旅実行

2015平和の旅は、八月に日中友好協会県南支部が上映した映画「望郷の鐘」の地、長野県阿智村にある満蒙開拓平和記念館を訪れる旅となりました。長野県は全国で最も多くの人を満州に送り出しました。特に南部（南信）出身者が多かったことから阿智村に記念館が建てられたとのこと。土地は村から提供されましたが、建物やその維持管理費は

すべて寄付で賄われています。当日はこの記念館近くの公民館で澤地久枝さんの講演会が行われていました。  
旅では、近くの天竜

峡や中山道の宿場町・仲間の絆を深めました。馬籠、妻籠も見学し、

### 9条の会県連絡会 創立講演会に千人

11月1日につくば市で行われた標記講演会は憲法学者の小林節さんと元公明党副委員長の二見伸明さんを講師に、高校生、大学がパネル討論に加わり、なごやかにかつエネルギーに高められ千人の心が燃えました。

今年もワイン（白）を販売  
します！ 1本1400円  
ご希望の方は  
近藤（080-1987-4050）まで

## 県平和委員会恒例企画

### 12/8 朝日新聞意見広告にご賛同を

毎年、太平洋戦争が始まった12月8日前後に県平和委員会が企画し新聞に掲載している意見広告の賛同者募金が始まりました。今年のテーマは、民主主義、

立憲主義、戦争法、沖縄が中心になります。賛同募金は個人が一口1000円、団体が3000円でそれぞれ1200口、100口（総額150万円）以上が県の獲得目標にな

っています。

昨年の土浦での実績は個人72口でした。生活が苦しい中恐縮ですがご協力をお願いします。近藤事務局長（080-1987-4050）まで。

総がかり実行委の戦争法廃止2000万人署名にご協力を

標記署名に取り組みます。用紙が必要な方はご連絡ください。また、毎月19日には土浦からも国会に駆けつけています。ご参加を。

北海道での23年間の後、茨城の地を踏んで早や42年、最も強い印象を刻んだのが小樽。亡父母が暮らし親類縁者も多いことから、戦争、加害と被害の様相などは小樽時代のわずかな見聞の記憶として残っている。とはいえ、住んでいた当時はいわゆる”平和ボケ”、”遊び呆け”の時代で、少し真面目に考えるようになったのは社会人になってから後のことである。

高校時代、父の死後は札幌から小樽に移り住み、小樽市若竹町の自宅から一気に海に向かって坂道を駆け下り、小樽築港駅（函館本線）から札幌行きの汽車（当時ディーゼル機関車と蒸気機関車）に飛び乗るといって高校通学であった。

駅舎のすぐそばにプロレタリア作家小林多喜二が小樽時代（5歳から獄中死の3年前の22年）を過ごした住居跡がある。作家三浦綾子の「母」にこの時期の多喜二一家が描かれている。小さなパン屋を営むこの家から、多喜二は朝パンを口にくわえたまま駅に駆け込み、北海道拓殖銀行に通いながら労働者のたたかいに身を投じつつ、作家としての実力を蓄積する姿が生々しく語られている。同時に隣接する港湾工事の“タコ部屋”から苦役に耐えかねて店に逃げ込む労働者も描かれている。多喜二の獄中死に至る“侵略と弾圧”の時代の片鱗である。

私の母方の縁者に戦死者がいることや父が戦地に赴いたことについては残念ながら詳しくは聞き出せないままであった。我が家の仏間に父にまつわる3枚の額が掲げられている。戦地ラバウルから帰還した後、親類の世話で入職した札幌刑務所の看守時代、囚人の脱獄を未然に防いだ事への褒賞（1948年）、職員鍛錬の場としての剣道大会での敢闘賞（1959年）、そして今ひとつが数年遡る“出征の記念写真”である。“祝出征大滝西次郎君”と記された日の丸とタスキがけの父の表情に悲壮感や恐怖感は読み取れない。

“お国のため”と精神教育された異常性も見て取れないことは私にとっては少しの慰めとなってきた。

戦争が濃い影を落としながらも、父の出征の年、戦地で何をし、何を考えていたのかさえも分からずじまいの我が家の戦争史である。戦争とほとんど関わりを持たない多くの現代青年が”知性の力”で戦争の悪を学び、街頭で戦争法反対の声を上げる姿に唯々敬服し希望を見る。

（大滝 誠）

## 「小樽」の記憶

リレー随想